

令和6年度 「多文化共生の担い手連携促進研修会」 第2部 実施報告書



主催 (一財) 自治体国際化協会

1. 開催趣旨

在留外国人が増加傾向にある中で、多文化共生の推進に向けて、地域における多文化共生マネージャー(以下「タブマネ」という)など多文化共生の専門知識を備えた人材をはじめとした多文化共生関係者(以下「担い手」という)の連携・協働が求められている。他方でクレアが新たに認定したタブマネのモチベーション向上をはじめ、担い手の実践ノウハウ習得などスキルアップに向けた支援も必要である。以上を踏まえ、地域レベル及び全国レベルで担い手のつながり(ネットワーク構築・強化)やスキルアップの場の提供として、テーマに関する講義、事例の紹介とそれに関する意見交換を含む研修会を実施することで、担い手の連携を促進し、多文化共生の取組を醸成する。

2. 実施概要

主催：一般財団法人 自治体国際化協会

日時：令和6年11月11日(月) 13:00～17:00

会場：小山市役所 会議室

参加者：26名

3. プログラム

「メンタルケアが必要な相談者への寄り添い方」

時間	所要(分)	内容
13:00-13:05	5	《開会挨拶》 (一財)自治体国際化協会 理事 小池 潔
13:05-13:20	15	《開催地紹介》 小山市市民生活部国際政策課多文化共生推進係長 葛原 誠 氏
13:20-13:30	10	《ファシリテーター挨拶》 地域国際化推進アドバイザー スペイン語通訳相談員 村松 紀子 氏
13:30-14:00	30	《基調講演》 四谷ゆいクリニック 臨床心理士 田中 ネリダ 氏
14:10-15:10	60	《パネルディスカッション》 パネリスト：栃木県小山市 出杏田 初江 氏 栃木県国際交流協会 当山 アドリアナ 氏 茨城県国際交流協会 宮川 泰南 氏
15:20-16:20	60	《グループワーク》
16:30-16:35	5	《ファシリテーターによる総括》
16:35-17:00	25	参加者自己紹介・情報交換、閉会

4. 参加者の声

- ・「枠を守る」「行動に移す」「相談員の心を守る」の3つが特に心に残りました。相談者と相談員の両方の心を守りながら解決に繋げるスキルを深い部分で理解できました。
- ・他の相談センターでどのような相談があるか、どのように対応しているかがわかり大変参考になりました。相談センターを運営されている方は、そのことがとても知りたいと感じていると思います。
- ・どの事例も複合的な問題を抱え、相談員としてできることは何か考えさせられるものでした。寄り添いは必要だが、自身の気持ちの整理（荷下ろし）も重要で、一人で抱え込まず他の相談員や機関との連携を意識して今後も取り組みたいと感じました。
- ・こころの相談事業を当センターでも実施しているので、カウンセラーと精神科医との連携や、スーパービジョンの必要性について大変参考になりました。
- ・日頃同じ職種の方と知り合うことは皆無なため、他の現場での様子や相談員さんの考え方を知ることができ有意義でした。
- ・今回のパネルディスカッションの事例を考えると、解決が難しく相談に応えられないところが確かにあります。当事者に配慮して適切な解決策を見つけるには、日ごろからの地域資源との連携づくりが不可欠であることを改めて実感しました。
- ・事例の話し合いはとてもよかったです。また、慣れたところで名刺交換の時間を設けていただき、さすが村松先生です。

5. 実施結果

小山市国際政策課より市の概要および多文化共生施策についての説明が行われた後、田中ネリダ氏による基調講演「メンタルケアが必要な相談者への寄り添い方について」が行われた。相談者に寄り添い傾聴するが、予め設けた「枠」の範囲とし、終了後相談員は「荷下ろし」を行うことで自身のメンタルケアにも配慮することが必要と説明された。またケースに関するコンサルテーションの必要性も言及された。村松紀子氏をファシリテーターとしたパネルディスカッションでは、実際に日々相談業務を行っている3名の相談員から、複雑・複合的なケースに対する具体的な対応事例が紹介された。必ずしも解決に至る相談ばかりではなく、相談員への心理的負担も重いことや、他機関との連携の必要性なども再確認された。グループワークでは、お題として出されたケースへの対応方法について各グループで活発に意見交換が行われた。最後に、村松氏の計らいで全員が各自の対応言語や所属を発表したのち、参加者同士のネットワークづくりの機会が設けられ、積極的に情報交換が行われた。

本研修会では、全国各地で日々相談業務に従事している参加員が相談業務に従事する上での心構えや手法、連携の必要性などを学ぶと共に、具体的な相談事例を共有する機会を提供した。アンケート結果からも、研修会での学びはもちろんのこと、日頃出会う機会が少ない他地域の相談員同士が繋がる有益なネットワーク機会となったことが伺えた。受講者には本研修会の成果を、今後の多言語相談対応の益々の充実のために活かしていただきたい。

研修会の様子



以上